

サガー・ミシュラ研究員（ネパール）



私はサガー・ミシュラと申します。ネパール東部にあるジャパ郡出身です。1997年にカトマンズにあるトリブバン大学のキャンパスで講師補佐、2000年にはジャパ郡開発委員会の会計監査員として勤務した後、2002年にネパール政府の行政官として採用されました。それ以後、私は内務省内の様々な事務所で勤務しています。この7年程は中央・地方レベルでの防災業務等に従事しています。私の活動はフィールドで過ごすのが大半で、

これまでに様々な地域で勤務し、郡事務所長補佐、ブータン難民キャンプ監督官、郡行政事務所の行政官を務めました。郡行政事務所は、地方レベルでの防災を担う中心機関です。

ネパールには、5つの地域、14の県、75の郡、58の市、3,913もの村落開発委員会があります。国家元首は、ラム・バラン・ヤダブ大統領で、政府はマダブ・クマール・ネパール首相により率いられています。ネパールは、海拔60～8,848メートルに及ぶ小さな内陸国です。国土は、147,181平方キロメートルで、南アジア地域に位置しています。首都はカトマンズで、中央政府機関はカトマンズのシンハダーバーにあります。人口は約2千7百万人です。国土はヒマラヤ地域（国土の15%）、丘陵地域（同68%）、テライ平原地域（同17%）の3地域から構成されています。四季があり、冬（12月～2月）、春（3月～5月）、夏（6月～8月）、秋（9月～11月）となっており、モンスーンの時期は6月から9月中旬頃までです。

ネパールで起こりやすい災害は、洪水、地滑り、地震、降雪、雪崩、火災、疫病、氷河湖決壊です。しかし、これら災害の影響は、隣国と比較すると比較的穏やかなものであるといえます。そのため、国民の防災意識の欠如や災害予防といった取り組みが不足しており、このこと

は2008年のコシ川洪水の際に明るみになりました。もし人々が災害についての知識を十分にもっていたら、そして意識啓発プログラムが行われていたなら、この洪水による被害は未然に防ぐことができたと思います。

来日前には、カトマンズにある内務省で勤務していました。現在の法制度では、内務省が国レベルでの防災担当機関として位置づけられています。主導機関である中央自然災害救援委員は、議長を内務省大臣とし、30以上の関係機関の代表により構成されています。

私のADRC滞在期間（2009年7月～12月）を通じて、洪水、地滑り、津波、火山、地震に関する日本のシステムについて学んでいます。日本はこれら災害への効果的な対策を行う世界有数の国だと私は思います。

ADRC 客員研究員プログラムは、ADRC メンバー国との情報や経験の共有を行う貴重な機会を与えてくれます。このようなすばらしい機会を私に与えていただき、ADRC とネパール政府に大変感謝申し上げます。このプログラムは、アジア地域での防災専門家の育成や、防災に関する政策、計画、プログラム等の更なる構築の一助となるでしょう。さらに、国内の他の機関と協力しながら、ネパール政府が災害への予防を講じ、災害対応、復興を適切に実行できる能力を高めてくれるでしょう。ネパールの防災力強化のために、残りの3ヶ月もがんばりたいと思います。よろしく申し上げます。